

被爆70年記念写真展

復興の記憶

ヒロシマを見つめた写真家たち

明田弘司 菊池俊吉 岸本吉太 木村伊兵衛 佐々木雄二郎

土門拳 林重男 山端庸介 H.J. Peterson

岩波映画製作所(長野重一・名取洋之助)他 五十音順(個人団体)

伝えたいこと

1945年8月6日8時15分

セミの音が響く夏の朝は

一瞬で色を消された。

この惨禍を後世に伝えることを

使命と感じた写真家たちは

ヒロシマを撮らずにいられなかった。

あの日の風を、人々の声を感じたい。

いまを生きる私たちへの伝言に

耳をすませながら。



2015 7月16日(木)〜9月6日(日) 10時〜17時(入館は16時30分まで)

(休館日)月曜日(祝日7月20日は開館)

公益財団法人

泉美術館

エクスセル本店5階

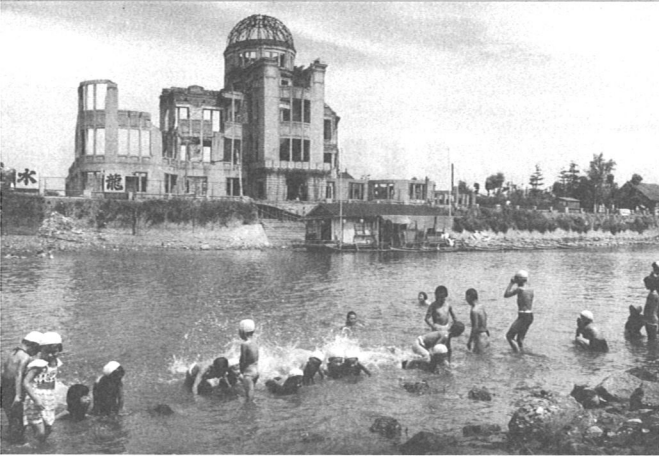
広島市西区商工センター12・3・1

TEL 082・276・2600 入場無料

相生橋に立つ原爆孤児の兄弟。水面から跳ね返った爆風で歩道が持ち上がっている。被爆の実態と復興を伝えた初の写真集「LIVING HIROSHIMA」(広島縣観光協會1949年刊行)より 撮影/木村 伊兵衛 所蔵/木村 尚子 協力/田沼 武能 1947年(昭和22年)秋

公益財団法人

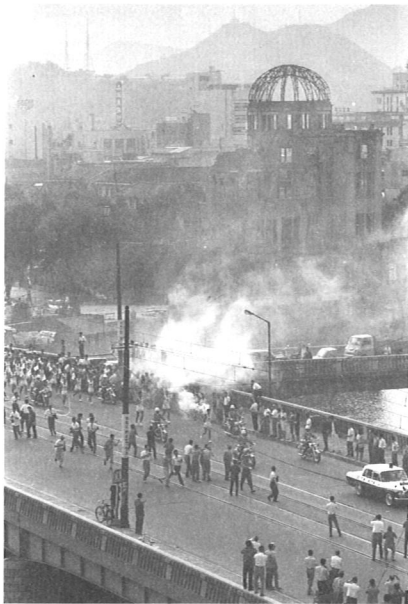
泉美術館



原爆ドームと元安川
 撮影/土門 拳 所蔵/土門拳記念館
 1957年(昭和32年)



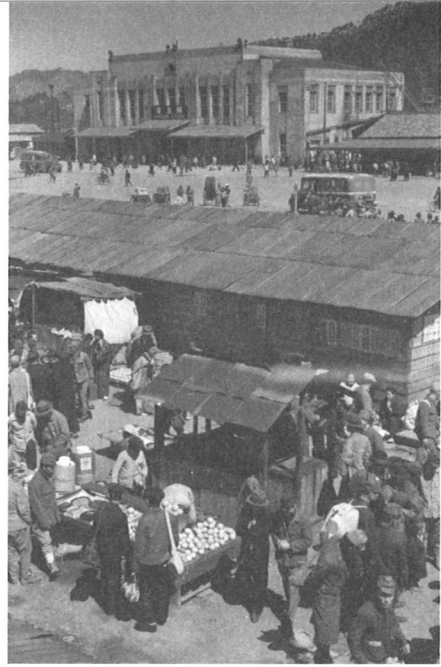
広島駅構内
 撮影/岩波映画製作所(長野 重一・名取 洋之助) 所蔵/岩波書店
 1952年(昭和27年)



相生橋を走る東京オリンピックの聖火ランナー
 撮影/明田 弘司
 1964年(昭和39年)9月

それでも、みんな力強く生き抜いた。

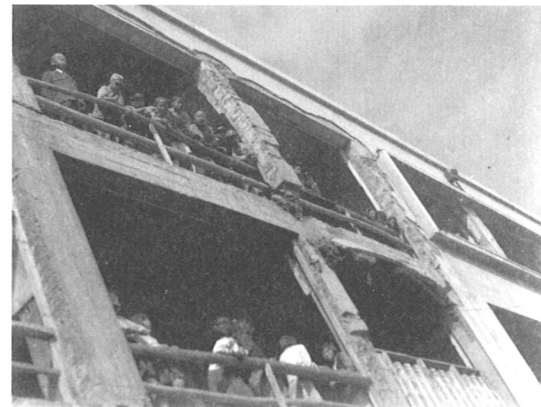
原爆の惨禍を後世に伝えることを使命として
 写真家たちはヒロシマを撮り続けた。
 その記録は戦争の悲惨さを語り、
 命の重さを問いかける。
 復興する街は、
 生きることに懸命だった市民の心に
 希望の光を灯していった。
 あの日から、必死で生き抜いた先人たちの姿は
 私たちの心に、なにを刻むだろう。



広島駅前闇市
 撮影/山端 庸介
 所蔵/山端 祥吾
 寄託/日本写真保存センター
 1946年(昭和21年)春



下校する子どもたち
 撮影/佐々木 雄一郎 所蔵/塩浦 雄梧
 1951年(昭和26年)

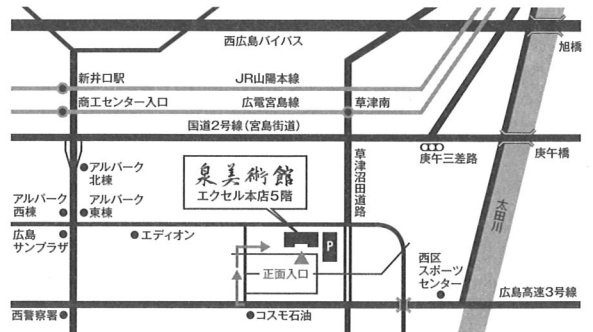


焼け残った袋町小学校の教室で授業を受ける
 広島市立第五中学校(現 幟町中学校)の生徒たち
 撮影/岸本 吉太 所蔵/岸本 担
 1947年(昭和22年)

記念講演会 講師:松本 徳彦氏

泉美術館特設会場 7月18日(土) 13:30~14:30
 (参加無料・予約不要・定員100名)

本展監修の写真家 松本徳彦氏(日本写真家協会副会長)による
 展示写真家や作品についての解説と、
 記録写真の重要性について講演いただきます。



■ JR山陽本線[新井口駅]から徒歩約10分 ■ 広電宮島線[草津南]から徒歩約7分
 ■ 駐車場無料(エクセル本店の駐車場をご利用ください)

主催/公益財団法人泉美術館・中国新聞社 協力/広島平和記念資料館・岩波書店・土門拳記念館・日本写真保存センター

後援/広島県教育委員会・広島市 広島市教育委員会・NHK広島放送局・中国放送・広島テレビ・広島ホームテレビ・テレビ新広島・広島エフエム放送・FMちゅーびー76.6MHz 企画制作/公益財団法人泉美術館・NPO法人広島写真保存活用会の会